

『理想のリスニング』

目次

はじめに

- 英語と生きる不安
- 本書の概要

理論編

第1章 なぜ、まずリスニングなのか？ ～「聞くこと」の深み

- ・「4技能」という区別を疑ってみよう。
- ・「聞く」VS「読む」「書く」「しゃべる」
- ・「聞く」の深み
- ・「聞く」と受動の技術
- ・言葉が「うまい」とは？
- ・言語の心地良さ

<ポイント>

- ・4技能は等価ではない。「聞く」ことの特特殊性
- ・言葉の「うまさ」とは？
- ・「心地良さ」の重要性

第2章 言葉はどう聞こえるか？ ～ 「心地よさ」から「過剰さ」まで

- ・皮膚感覚と言語コミュニケーション
- ・心地良さと協調性
- ・逸脱の力
- ・「言葉を使いすぎる」ということ
- ・「過剰さ」を聞く
- ・「何となく」が見えるように

<ポイント>

- ・「心地良さ」と協調性
- ・逸脱と過剰さの意味
- ・「強調する」とはどういうことか

第3章 言葉をどう受け取るか？ ～ 「強さ」の上手な使い道

- ・意味のある意味
- ・英語はどう聞こえるか
- ・「等間隔」をめぐる誤解

- ・英語的「強さ」はどう表現されるか
- ・「あ、始まったな」の知恵
- ・私たちはいつ失敗するか

<ポイント>

- ・意味のある意味を聞く
- ・英語はどう聞こえるか
- ・聞くための準備法

第4章 リスニング練習の秘術とは？ ～ 切り札の「一点聞き」

- ・耳は言葉の入り口
- ・「おもしろくなさ」こそがツボ
- ・「おもしろくない」から「わかる」へ
- ・「退屈」を活用する
- ・「わかる」の達成感
- ・リズムの「マンネリ」と付き合う
- ・徹底的に練習したい「一点聞き」
- ・「切れ目」には何がある？

<ポイント>

- ・リズムと集中力
- ・「一点聞き」の練習
- ・「切れ目」の意味

第5章 聞き方は鍛えられるか？ ～ 「耳の記憶」を活用する

- ・耳も記憶するのか？
- ・薄暗い記憶の使い道
- ・残響への反応を鍛える
- ・名前を聴く
- ・耳が不得意な日本人
- ・日本語が英語の邪魔をする
- ・固有名詞で練習する

<ポイント>

- ・「残響」を活用する
- ・「名前」を聞く
- ・日本語と英語の聞き方の違い

第6章 身体で聞くととは？ ～ 「実存英語」のすすめ

- ・声のインパクト

- ・発音のための身体
- ・子音を攻略するために
- ・響きの違いを聞く
- ・単語は身体の一部
- ・you がうまく言えない
- ・「実用英語」よりも「実存英語」

<ポイント>

- ・「子音」の攻略
- ・英語的身体の「響き」を身につける
- ・「実存英語」とは？

第7章 人間を聞く ～ 「伝え聞き」の秘密

- ・残る言葉、消える言葉
- ・残響としての『フランケンシュタイン』
- ・立ち聞きと英語圏文化
- ・「聞き届け」の意味
- ・「小僧の神様」の「漏れ聞こえ」
- ・虎の声の威力

<ポイント>

- ・近代社会における聞くことの意味
- ・小説を支える声への関心
- ・聞くことは他者の心への入り口に

技術編

第8章 切れ目を聞く

- ・野ウサギを捕まえる
- ・どこを聞くか
- ・英語の「音の価値感」
- ・音を感じる
- ・まずは単語の「山」から
- ・山をとらえる練習

<ポイント>

- ・ストレス・アクセントとは？
- ・日本語との違い
- ・まずは山を聞く

第9章 切れ目を聞く

- ・「切れ目」をとらえるために
- ・聞こえすぎると聴き取れない？
- ・ピラミッドでとらえる
- ・シャーロック・ホームズの想像力
- ・段階別の練習
- ・体の事情としての切れ目
- ・息つぎは「意図」だらけ
- ・節を教える切れ目
- ・切れ目と感情

<ポイント>

- ・切れ目が文法理解を助ける
- ・切れ目と感情
- ・切れ目のシグナル

第10章 名前を聞く

- ・「点」から始める
- ・「知っている語」を聞き取る
- ・「固有名詞」を聞く
- ・「名前がくるぞ！」という予感

<ポイント>

- ・点を聞く練習
- ・固有名詞を聞き取る
- ・情報が持ち出されるとき気配を知る

第11章 身体と空間を聞く

- ・実存英語の実践
- ・折り紙の方法
- ・指示の作法
- ・料理
- ・ヨガ
- ・ヨガと気分
- ・4技能より3次元

<ポイント>

- ・空間や位置がどう表現されているか聞く
- ・「する」の表現のヴァリエーションを聞く
- ・画像をヒントに表現を聞き取る
- ・画像なしで画像を想像する

第12章 人間を聞く

- ・言葉は「物」なのか？
- ・「人間を聞く」とは？
- ・欲望を聞く
- ・何を勉強すればいいか？

<ポイント>

- ・人間を聞くとはどういうことか
- ・コンテキスト共有のための準備
- ・誤差の修正の役割
- ・コミュニケーションは単なるメッセージの受け渡しではない。

あとがき